

令和8年度第1回 子ども・子育て会議 議事録

開催日時 令和8年8月3日（月）午後7時から午後9時15分まで

開催場所 守山市役所防災会議室

出席者

- (1) 委員：中井会長、山田副会長、宮嶋委員、里内委員、山本(な)委員、田邊委員、山本(博)委員、若杉委員、松川委員、田中委員、赤渕委員、藤井委員、佐子委員、川那辺委員、北川委員、廣瀬委員、山口委員
- (2) 関係課長：田中課長、犬丸課長、上本課長、小井課長、坪内課長、井口課長、井上課長、川尻課長、上村課長、岡田次長、及川課長、田中所長、川中課長
- (3) 事務局：森野部長、池田次長、大西次長、木ノ切課長、顚娃参事、濱口係長、藤原主事、本職

会議内容

1 開会

- ・部長挨拶
- ・委員紹介、関係課出席者紹介、事務局紹介
- ・傍聴者入室

2 報告・議事事項

(1) 待機児童の状況等について

発言者	発言内容
会長	幼稚園の魅力向上の取組について。預かり保育の利用者はどれほどか。
こども家庭部次長	1クラス30人以内を目安としている。夏を超えると3歳児の利用も増えてくるが、30人を超えたときには更に1クラスを開放し、最大50人ほどを対象として受け入れている。
委員	長期休業中は預かり保育の料金が減額となるのか。
保育幼稚園課長	長期休業中の料金は、以前は600円であったが現在は450円としている。
副会長	本日の会議の議題の位置付けについて教えて欲しい。こども・若者応援プランの全体計画のために、意見を出し合っているというのか。
事務局	本日は「こども・若者応援プラン2025」に基づき各種施策を進めている令和7年度の実績について説明し、意見をいただくことで今後の政策の参考にしたいというのが主な趣旨である。

	毎回会議の初めに、直近の本市の状況について説明しており、今説明した(1)はこれに当たる。 この後、(2)で本プランに基づく各種施策の取組状況について説明を行う。
副会長	数的な改善は数値を見て分かるが、質的な課題があれば教えて欲しい。
事務局	ここ数年で待機児童の数は減ったが保育士の確保と定着化については課題が残る。建物自体はあるが保育士が続かないとまた待機児童が増加するため、保育士に働き続けてもらえる体制を市として考えていかないといけない。 児童クラブについても全てのニーズに応え切れていない面があるため、引き続き内容を検討したい。
副会長	それらも基本的には数対策だと伺える。保育士の数だけの問題ではない大変さが現場にあらうかと思うが、その点はどうか。
こども家庭部次長	保育の内容や質の問題は確かにある。何をどこに相談してよいのか分からない、子どもと向き合うことのできない自分へ辛さを抱えている保護者も多いが、現場だけで解決できない問題も多い。そのため子育て応援室と連携するなど、保護者がレスパイトできる方法を考えている。さらに、発達課題がある場合にはこれに対応できるように公立園、民間園、地域型問わず、専門の課へ繋ぐことを頻繁に行っている。
会長	事務局の説明の中でも数から質に転換しなければいけないという話があった。預かり保育や児童クラブでも数を満たせばよいというわけではなく、体験が広がる場になればよいと感じる。
委員	小学生の放課後の居場所事業は、玉津・中洲から始めていく事業か。それともこの2学区以外では実施されないのか。
事務局	前提として、児童クラブの受け皿の拡充は児童クラブで補うべきと考えている。一方、玉津・中洲の場合は近隣に適地がない、事業者の新規参入が難しいといった地域性などを総合的に考えた上で、児童クラブではない方法で広く小学生の居場所を作ることと決定した。同じ手法で駅前の大規模校で同じ事業ができるかと言われれば難しい。
委員	(児童クラブなどは)確かに地域性が色濃く出る事業だと感じるため、それぞれで工夫していく必要があると感じる。
会長	こども誰でも通園制度について。活動の中身や利用している子ども

	もの状況はいかがか。
事務局	mamoccoの運営事業者曰く、普段から施設を利用している保護者がこの制度を利用されることが多いとのこと。この制度は1時間のみの利用も可能であり、短い時間で子どもが入れ替わり立ち替わりするため対応が難しいという声は聞いている。
委員	自身が行っているママパスポート事業の読者は0～2歳の保護者が多く、こども誰でも通園制度への関心は高いと感じる。ただ、月10時間の預かりでは就労できないため、慣らし保育のような位置付けで理解されている保護者が多い。
会長	確かにこの内容は働く親を支えるという制度ではない。
委員	小学生の放課後の居場所事業と児童クラブの内容について。本当は児童クラブを作りたいが、それができないので居場所事業にするということであれば疑問を感じる。居場所事業となることで、児童クラブより内容の充実度が下がることはないのだろうか。
事務局	児童クラブにしたかったけれど、できないから居場所事業を実施するというわけではない。保護者アンケートから見えてきたニーズや地域性を踏まえつつ、児童クラブに行っていない児童をも含めて、放課後の居場所の充実を目指した事業である。 なお、運営事業者は児童クラブと同事業者とすることで両者の内容に差が出ないように、同じ地域の児童を見守るという視点で進めていきたい。
会長	居場所づくりにおいては、子どもが本当に自分のやりたいことができる場があるかどうかということが真の課題である。 児童クラブとの違いというよりは、子どもの主体性を大事にしながら主体的に取り組める場を目指す必要があると感じている。
会長	(1)において、承認を得なければいけないものがいくつかある。これについて異議はないか。
副会長	「保育提供体制の確保のための実施計画」における保育人材の確保・定着化について。今はどこも金額で人材を取り合っている状況であるが、給与面だけではなく、どう育てるか・守るかという点について考えた方がよいのではと思う。ここに記載するかはまた別だが。
会長	1人の先生をどう守り育てていくということが一番大事である。先生自身が保育の仕事の楽しさを感じることで、そして人を育てる組織を作っていかなければ人材は育っていかない。

	その点にあたって何か工夫などはあるか。
保育幼稚園課長	確かに給与面だけでは定着化には繋がっていない。一方で、保育士ケアという面でメンタルヘルス相談の実施や保育ソーシャルワーカーの設置など、保育士への支援を行っているところである。
委員	昨年も保育士へのメンタルサポートという話を聞いた。その際、勤務中に席を外して相談に行く形だったと思うが現在もそうか。
保育幼稚園課長	当初はそうであったが使いづらさを考えて、事前に内容を聞き取って個別で対応する形に変えた。現在は勤務時間後などに市役所へ来庁されている。
会長	そのほか特段意見がなければ承認したいと思うがいかが。今後、実施していく中で課題が出てくるだろうが、積極的に工夫して取り組んでいただきたい。
・ 保育提供体制の確保のための実施計画→承認 ・ 就学前教育・保育施設整備交付金に係る整備計画→承認 ・ 乳児等通園支援事業における事業の「認可」および事業所の「確認」→意見聴取済み	

(2) 「子ども・若者応援プラン2025」における各施策・事業の取組状況について

発言者	発言内容
委員	生活困窮などによって暮らしにくさを感じている人や地域に居場所がない人に対する支援はあるか。
健康福祉政策課長	困窮されている方は居場所のない方も多い。そういった点も踏まえ、今年度からカレー飲食の無料支援という事業を始めた。一方で大切なのは声なき声を拾うことであり、実際のところ既存の場所には行きにくいという声も聞く。そのため、様々な場所に働きかけを行い、理解者を増やすことであらゆる方が出かけていきやすい環境を整え、社会参加のきっかけづくりを行っていきたいと考えている。その一環として、企業側とのヒアリングなども行っている。
会長	こどもの貧困について。資料内には出てこなかったが、守山においては現状どうであるか。
健康福祉政策課長	こどもの貧困はどのまちにおいても無いものではない。以前、健康福祉政策課では生活保護受給者に向けた学習支援事業を実施していた。単なる学習支援だけではなく、居場所を提供す

	る目的もあり、その事業を通じて数字だけでは見えない貧困が隠れている事実を改めて感じた。貧困問題と一概に言っても社会参加への貧困にも繋がっており、先ほど説明したような取組事業を通じて子どもの声を聞きつつ、ひとり 1 人に応じたサポートを実現したい。
委員	先ほどからの貧困の話とは少し異なるが、基本的な生活や育児がままならない、お金の使い方が分からないという若い親子のケースを抱えている。くすのき教室などでも社会生活について教えていただいていると思うが、どうすればそれらのかけ違いが生じないのだろうか、民生委員のケース検討会でも話し合っている。具体事例の共有までである。
健康福祉政策課長	市では直営で生活困窮者自立支援制度を実施している。この制度は年齢や障害の有無を問わず、あらゆる方を受け止めて支援策を講じていく窓口である。
副会長	何点か感想を申し上げる。 資料 2 の P. 4 のタイトル「妊産婦および新生児に対する指導」に違和感を覚えた。指導ではなく支援という表現でもよいのでは。 また、「ネウボラ面接」という守山市の独自事業について。フィンランドのネウボラの場合は、パートナーの同伴が必須となっているがこの事業は妊婦だけが対象なのか。
母子保健課長	母子健康手帳の交付時の面接を「ネウボラ面接」と呼んでいる。パートナーが同席される場合もあるが主な対象者は妊婦である。
副会長	ネウボラの趣旨はパートナーを必ず同伴させて、妊娠・出産の問題だけでなく、その後の生活の起こり得る不安、あるいは可能性について、できるだけ早期から対応するという点にある。 守山市のネウボラ面接もこれをベースにして作られていると思うが、どう出産するかという点だけでなく、もう少しその後の生活や子育てに焦点を当てられた内容になっていけばよいと感じた。 もう 1 点。（資料 2 の説明を通して）何をやっているかは分かったが、具体的に困っている点や課題も上げてもらえる方が意見を言いやすい。例えば、不登校の児童生徒が何人いて、何人が相談に繋がっているのかはデータで見る必要がある。一方で、データに見えないものがあるというのもその通りであり、両者を合わせることで質と量の両面が見えてくるため、その上で課題を考えられ

	たらよいというのが全体の感想である。
委員	事業の実施内容は資料 2 の説明で分かったが、何に困っているの だとか課題については見えてこなかったので、意見が出しづら いと感じた。
委員	子育て女性や助産師などによって構成される民間団体の活動に 関わっている。2 年前に県内でアンケートを実施したところ、各 市町に相談窓口はあるものの相談しにくいという声が多くあっ た。 また、妊娠期から出産・産後・子育てにおいて、1 人の担当助産 師がケアする仕組みの良さを聞いた。切実な悩みは信頼関係を築 かないとできないため、今ある資源を上手く使いながら、そのよ うな仕組みにできないのだろうか。
母子保健課長	確かに初めて会った人にどこまでプライベートなことを話せる のかという問題はある。母子保健課では地域ごとに担当の助産師 ・保健師を配置している。中でも長期間に渡って支援が必要とな る場合には、新生児訪問時に助産師と保健師が揃って訪問するな ど、両方で長く関わっていく仕組みを作っている。
委員	保護者の状況としては、自分の子どもだけが大切という保護者と 子ども全体を見守っていこうという保護者とで分かれてきてい て、地域から遠ざかっている保護者が多い。 その中で、こども応援団を保護者も関われるような事業にすること で、保護者の意識が変わるきっかけになるのではと感じる。
会長	PTAの解散が増えている時代で、保護者と子どもと地域がどう繋 がっていけるのか、改めて考えていけるとよい。
委員	地域学校協働活動事業と小学生の放課後の居場所事業は全く別 物か。両者が上手く連携できるとよいと感じるのだが。
社会教育・文 化振興課長	小学生の放課後の居場所事業は、こども政策課と社会教育・文化 振興課が連携して進めている。 子どもの体験という部分では、地域学校協働活動事業をヒントに 同じ方に取り組んでいただくことができると考えており、本事業 を居場所事業に活かすべく、引き続き連携して取り組んでいく。
委員	もう 1 点。Café Ink MORIYAMAという居場所を運営している。現 在、不登校の居場所として月 2 使用されているが、先日別の団体 から新たに使用したいとの相談を受け、不登校の子が増えてきて いる肌感を感じた。そして、よければCafé Inkを相談事業の場と

	して活用してもらえればと思う。カレーの無償提供や駄菓子屋の開設なども行っているため、相談に来るきっかけ作りに活用してもらえれば。
委員	傾向として、非行よりも不登校や引きこもりといった課題を抱えている子が増えている。高等学校を中退した場合に通信制へ行くパターンが多いが、学力に課題があるなどでレポートを書けないといった問題があり、今後このような子ども達への支援をどう講じたらよいものか。不登校に関しても中学校まではくすのき教室などの関わりの場があるが、その後の支援や居場所については考えていかないといけない。
委員	自身の経験を踏まえて、健診などの場ではどうしても身構えてしまうため、対象者が話しやすい環境作りや工夫をしていってはどうかと感じた。また、虐待、不登校、引きこもりなどの取組を行っている中で、人数の増減について記載があれば資料として分かりやすいと感じた。以上感想である。
委員	30年以上校医をしているが、明らかに不登校児は増えている。小中学校では手厚い支援がなされていると感じたが、そこから先の支援に不安を感じるのと高校卒業後の引きこもりへの支援についても気になるところである。 もう1点。保育園には嘱託医が必ず必要である。公立園は医師会から依頼をしているが、民間の保育園での確保には関与していない。現状として、市内の民間保育園で嘱託医の確保で困っているなどはあるか。市内で賄えずに外部へ依頼している事例など。
こども家庭部 次長	民間園では、近隣の公立園に園医がいらっしゃる際に一緒に診ていただくという方法も取っている。一定市内で賄えており、現時点でひっ迫しているような状態ではない。

(3) 地域子育て支援拠点施設（mamocco）整備事業の効果検証

発言者	発言内容
委員	園の保護者でも働く女性が増え、親同士の関係を結ぶことは時間的にも難しい状況下にある。 子育ては正確な答えが出ない中で悩みながらしていくものだが、そこに難しさを感じている保護者が増えており、本音を引き出す難しさを感じている。表向きはスマートに子育てしているように見えていても、本音を聞いてみると苦しさが見えることもあり、

	何をもって相談なのか、数字では図れないのではと感じる。
委員	保育現場では、繋がりを求めている人とそうでない人とが二極化していると感じる。そして、一見繋がりを求めていないように見えても実は繋がりたいと思ってる人もいて、誰か1人でもいいので信頼できる人を見つけたいと保護者自身も思っているのでは。そのため、件数の数値は少ないが、この相談で救われてる人もいるかもしれない。この人だったら話してみたいと思える人がmamoccoでも園でも地域の人でも良いし、そうした人が見つかるとう良いといつも感じている。
会長	相談の大切さ、人と人が関わりながら顔を合わせて話をするということが大切だと感じる。このあたりの点を工夫してカウントに活かせるとよい。

全体を通した質問・意見

発言者	発言内容
委員	mamoccoは駅前の施設だが、今後中部・北部へこのような施設を整備する予定はあるか。
事務局	中部では、図書館の横の大型児童センターが同じ機能を持っている。北部については、先ほど説明内でも触れたが速野幼稚園の空き教室を活用して、未就学児の親子が集う場を整備予定である。また、地域総合センターや民間の児童館、友愛児童館や速野の友愛第二児童館も含めて、市内全域で子育て支援拠点を展開している。
副会長	当然されてると思うが当事者アンケートの結果など、数的な結果だけではなく質的な結果もこういう場で教えて欲しい。
会長	守山市の取組がよく分かり、また各担当課が一生懸命取り組んでいることも分かった。 一方で、課題も見えてきたため、また次回の会議で幅広いご意見をいただけたらと思う。

3 その他

健康福祉政策課より事業紹介

4 閉会